

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和5年度第1回高松市スポーツ推進審議会
開催日時	令和5年8月25日(金) 18時30分～20時10分
開催場所	高松市役所13階 大会議室
議 題	次期高松市スポーツ推進計画の策定に当たって(案)について(高松市スポーツ推進計画アンケートの結果報告について)
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	今井委員、大西委員、岡委員、岡部委員、笹崎委員、西山委員、藤尾委員、元木委員、山根委員、米村委員(欠席1名)
傍聴者	1人 (定員 5人)
担当課及び連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過及び会議結果

【会議の経過】

- 1 大西市長挨拶
- 2 諮問
- 3 事務局から、会議成立の報告後、会議の公開について委員会に諮り、審議した結果、公開とすることを決定した。
- 4 議題
事務局から、「次期高松市スポーツ推進計画の策定に当たって(案)」について、説明した。
- 5 主な意見、質疑等については次のとおり
○次期高松市スポーツ推進計画の策定に当たって(案)について

【議長】

次期高松市スポーツ推進計画の策定に当たって(案)について、次期計画の時に少しでも成人の週1回以上のスポーツ実施率が70パーセントに近づけるよう、御審議をお願いしたい。その中で、御質問等はないか。

【A委員】

市民のスポーツへの参加率を上げるには、自治会への加入の有無に関わらず、地区コミュニティとして考える。今後の高齢化も含めて考えると、地区コミュニティの崩壊を止めるだけでなく、引っ越してきた若い人たちにも声をかけながら新たな人間関係作りを行う。そのため、ニュースポーツも取り入れていきたい。

会議経過及び会議結果

【B 委員】

アンケート調査の結果の中で、コロナ禍も要因として考えられるが、健康増進・体力づくりに重きを置いている人が多い。自分の体力低下を感じ、健康増進・体力づくりの興味が増してきていると思うので、次期計画の基本方針に「スポーツによる健康増進」という項目が、新規で追加されているが、これは市民の人たちが求めているものとイコールになっている。今後、さらに健康増進のためのスポーツの環境づくりが必要だと思う。

【C 委員】

中学校部活動の地域移行について、高松市の指導者派遣の TASS は全国でも珍しい施策であると認識している。市民調査の結果、認知度が 2.5 パーセントということは少しショックではあるが、TASS を使って地域移行ができるのであれば他の自治体に対してアピールになる。8 月上旬に香川県の部活動地域移行について会議があったと思うが、高松市の進捗状況については如何。

【事務局】

部活動の進捗状況としては、進んでいない。今年度から教育委員会がモデル校地区を定め、検証している。次期計画に「中学校部活動の地域移行」という項目を追加したが、スポーツ振興課としては、TASS の人材育成に力をいれ、教育委員会がどのような方針を出しても対応できるように考えている。

【D 委員】

中学校部活動の地域移行について、平日も含めて考えているか。

【事務局】

基本的には土日だが、平日も含めてという可能性はある。

【D 委員】

そうなると、施設の問題がある。私たちの地域だと小学校しか施設がない。指導者についても問題がある。今後、地区体育協会や学校開放運営委員会に詳しい説明が欲しい。また、スポーツ推進委員や地区体育協会の認知度が下がっているのは、自治会の加入率と関係している。自治会の加入率が下がっているため、自治会に加入していない人にスポーツイベント参加の広報をすることが難しくなっている。

【E 委員】

アンケートの結果を見て、普段から健康に興味を持ち、目的を持ってスポーツに取り組んでいる人は自分から行動に移していることがわかる。問題は、そうでない人が、スポーツをやりたいという意識があることが分かったので、簡単にできるスポーツを取り入れていくことが課題であり、これから考える必要がある。そして、高松市は施設がすごく少ないと思う。小学校の体育館などを借りれることを知らない人がおり、関心はあっても踏み出せないような人が大勢いると思う。体育施設の予約も埋まっており、スポーツをやりたいくてもやれない人もいる。また、広報高松で以前はスポーツの情報を得られていたが、それが無くなった途端に、子どもの参加人数も減っており、宣伝効果が重要だと感じた。

【F 委員】

今回のアンケートの回答者のうち 1 割程度、障がい者の方が占めている。その中で体力不足を感じている人が多いということと、活動する場所がなかなかないという印象を受けた。ハード面やソフト面の受け入れ環境について、広報の時に分かるようにした方がいい。子どもの体力向上や健康増進が次期施策に入っているが、障がいがある方にも体力低下や体が動きづらくなる不安を抱える方も多いため、同様に取り組んでいく必要がある。

会議経過及び会議結果

【G 委員】

新たに中学校部活動の地域移行と、子どもの体力向上が施策に上がっていたが、中学生の子どもたちが部活動を楽しめるような制度設計が早くできればいいと思う。そのために、中学校部活動の地域移行は早く方向性を示さなければならない。子どもの体力向上に関し、子どもたちがスポーツをできるような環境をみんなと一緒に作ってあげればいいと思う。また、施設の関係では、老朽化の問題がある。お金の問題もあると思うが、壊れても直せていない現状で、計画的に修繕を行う必要がある。また、スポーツボランティアについて、施策の中で充実していくようにやっていけば、支える側の楽しさも味わえるようになると思う。

【H 委員】

4 点の意見及び確認がある。1 点目は、スポーツ実施率が 70 パーセントを下回った理由についてどう考えているか。また、今後の計画のターゲットは一体誰になるのか。2 点目は、障がい福祉課が実施するアンケートに障がい者のスポーツ実施率が取れるように反映する依頼を前回の審議会で発言したが、進捗状況について教えてほしい。3 点目は、新規に立てた健康づくりという項目について、スポーツ振興課だけでなく、障がい福祉課や長寿対策の関係機関と連携を取る必要がある。4 点目は、イベント開催における、受け入れ側の障がいの配慮面について、スポーツ推進委員や公共体育施設の職員の人材育成についての内容を計画に組み込んでほしい。

【事務局】

70 パーセントのスポーツ実施率が達成できていないことについて、アンケート結果を検証したが、明確な理由は見つからない。アンケート結果から周知・啓発という部分が十分ではないと感じているので、次期計画にどのように盛り込んでいくか検討したい。ターゲットについては、特に、高齢者の方、障がい者の方、子どもがスポーツをできるような取り組みを素案でお示ししたい。他課との連携については、先述の者を対象にするに当たり、他課との連携は必須であると考ええる。障がい者のスポーツ実施率については、今回のアンケートをクロス集計した結果、国の目標値である 40 パーセントを上回った。障がい者のスポーツ実施率は、次回の素案でお示ししたい。

【I 委員】

ターゲットの話があったが、70 パーセントを目指すのに当たり、具体的な対象者とアプローチ方法を考えなければならない。進捗管理のところで施設の利用者数が減っていること、また、教室の人数が減っていることなどから、効率的な施設運営ができていないことが推測できる。中学校部活動の地域移行について、根本は中学校教員の働き方改革から始まっているので、教育委員会と連携を図る必要がある。中学校教員のためなのか、子どものためなのか、上手く意思疎通できていないのが現状だと思うが、施策に掲げている以上、スポーツ推進審議会がどういう風に中学校部活動の地域移行に協力できるかということを考える必要があるのではないかと。また、子どもの体力向上について、どの分野で評価していくのかを考えるに当たり、体力テストなどが考えられるが、また違う尺度で見ていくのかという問題がある。他県では、体育の専門の教員を自治体で雇い、体力が低下している学校に配置することで、体力が向上し、体力の数値が上がるという事例もある。また、ファミリー層をターゲットにして、イベントなど保護者を巻き込む方法も考えられるが、施設の受け皿問題もネックになる。

会議経過及び会議結果

【事務局】

欠席委員から承った次の意見を報告。

- ・ 日常的に行えるスポーツに皆さん関心があり、ここにつながるような取り組みを今後展開していく必要がある。
- ・ スポーツを行わなかった理由で「年をとったから」というのが上位を占めていて、競技スポーツを専門にしている人であれば、他の競技に転向していくなど改善の余地がある。
- ・ 今後参加してみたいスポーツイベントで、「特にない」と答えた方が27.9パーセントもいて、東京オリパラあたりからスポーツの多様化が進んでいるが、対応が不十分なのではないか。
- ・ アンケートの回収率が32.8パーセントという低い回答率で、この数値を基に基準を取っていいのか。他市の回収率を参考に、回収率を上げるいろいろな取り組みを検討してみてもいい。

【議長】

課題山積だが、良いところはたくさんあって、TASSについて、認知度は低いですが、指導者の育成をしている点で、四国の中ではトップであると自負している。イベントについては、この8年間でスポーツフェスティバルという競技型のイベントは見直して、市民参加型のイベントである高松スポーツ健康感謝祭に変えた。コロナの影響で一回しかできておらず、結果が出るには早いと考えている。「体育」という言葉が非常に少なくなり、「スポーツ」、「健康」という言葉が多くなった。市の健康に関する計画と融合させて、次期計画の中に入れる必要がある。東京オリパラの関係で、障がい者スポーツに接する機会が多く、最終的に出てくるのが広報・周知である。高齢の方のため、紙媒体でのスポーツの情報提供も必要である。今後、今すぐにやらなければならないことと、次期計画に盛り込んでいくことを区別して話し合いをしていかなければならない。

【A委員】

中学校部活動の地域移行について、教育委員会の返事待ちではなく、関係者で専門部会を立ち上げて進めていっていただきたい。

【H委員】

国の計画の中の「体育授業への参加を希望する障害のある児童生徒の見学ゼロを目指した学習プログラムの開発」について、教育委員会に、学校体育の中で、推進してほしい。

【I委員】

「体育授業への参加を希望する障害のある児童生徒の見学ゼロを目指した学習プログラムの開発」に関しては、県の教育委員会で、国から事業の委託を受け、実践事例を重ねている段階になっている。

【議長】

他になれば、事務局から連絡事項について周知してほしい。

【事務局】

今回の審議会は9月22日を予定しているが、日程調整後、案内を行う。

6 大西会長（議長）閉会宣言

全ての議事が終了したことを確認し、大西会長（議長）が閉会を宣言し、閉会した。